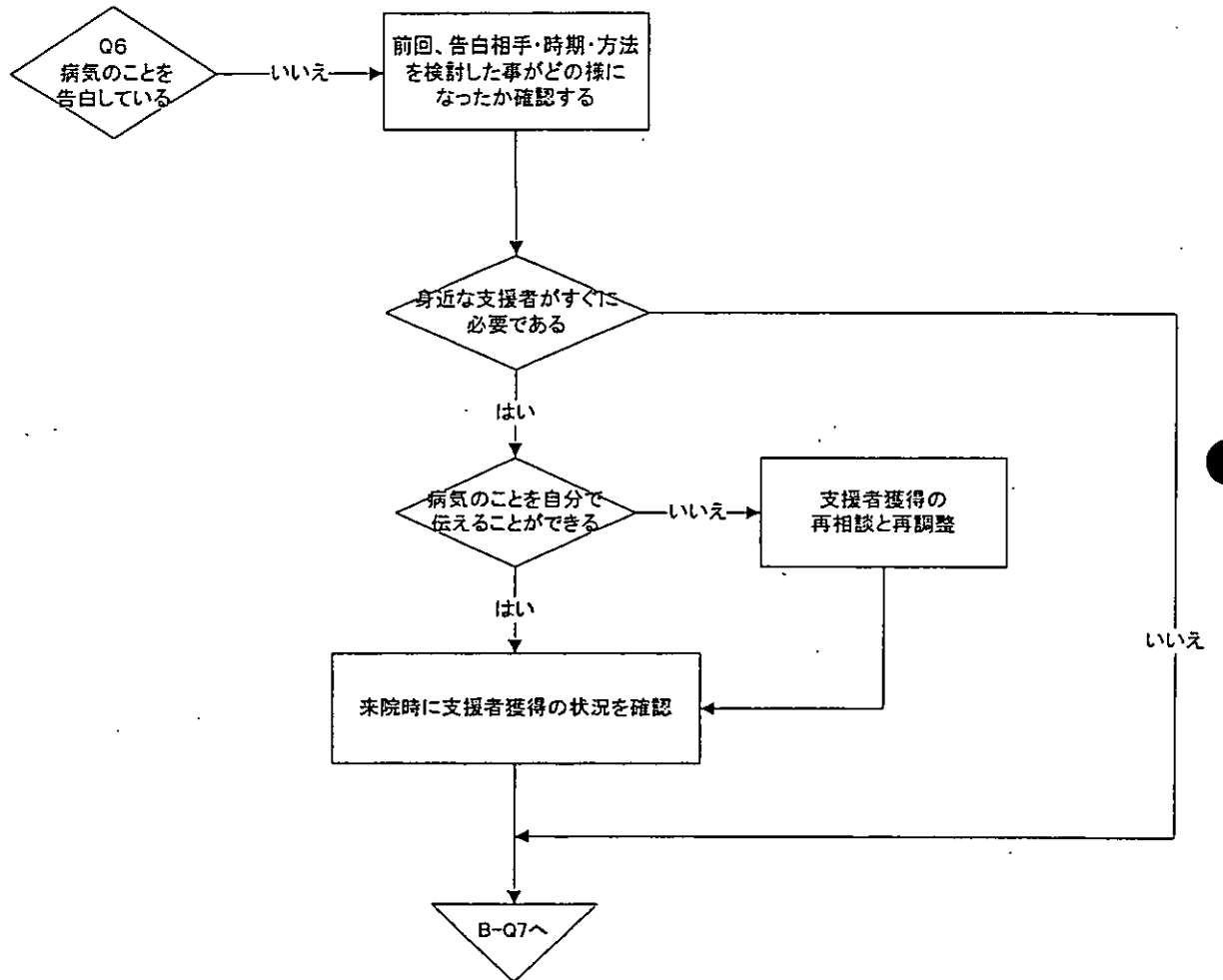
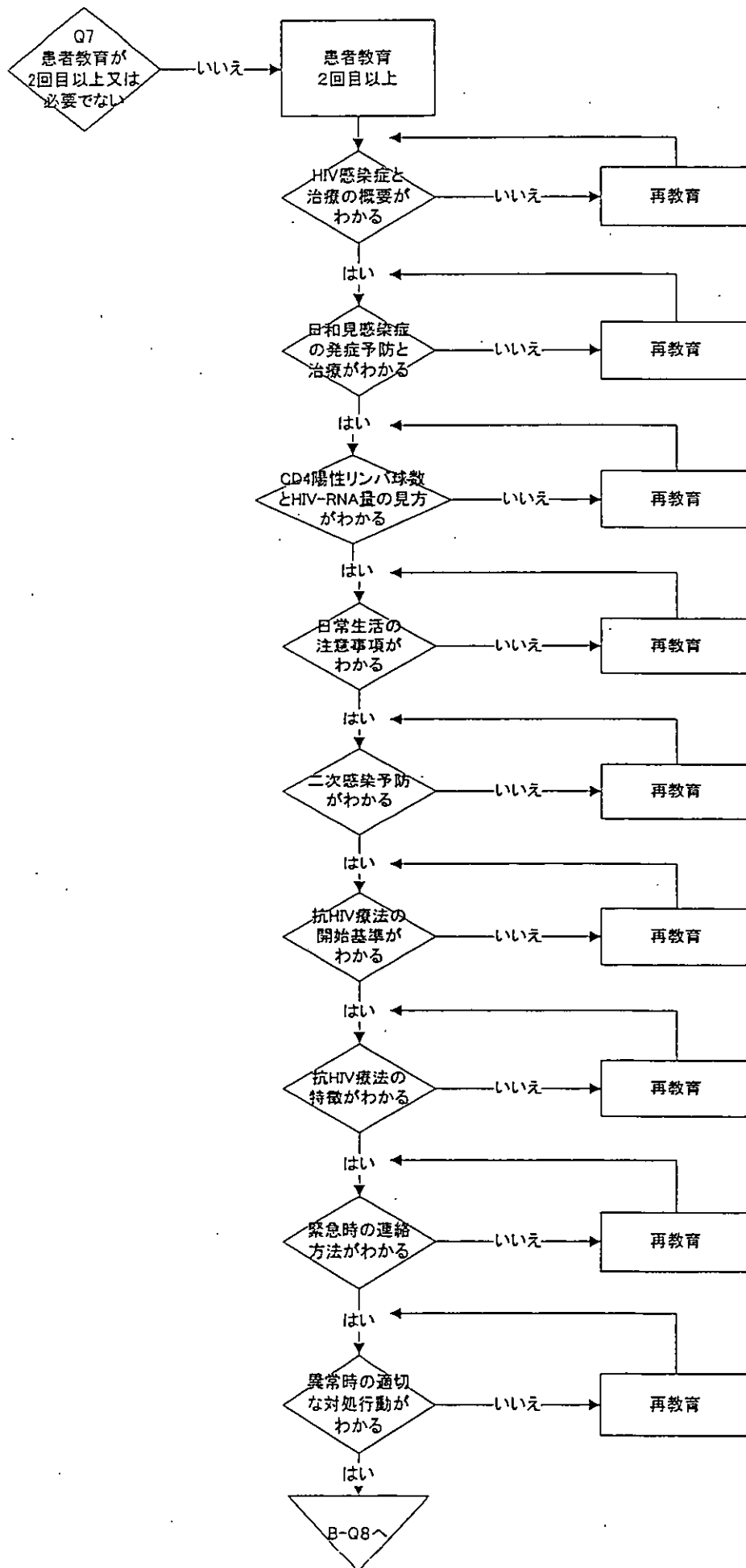


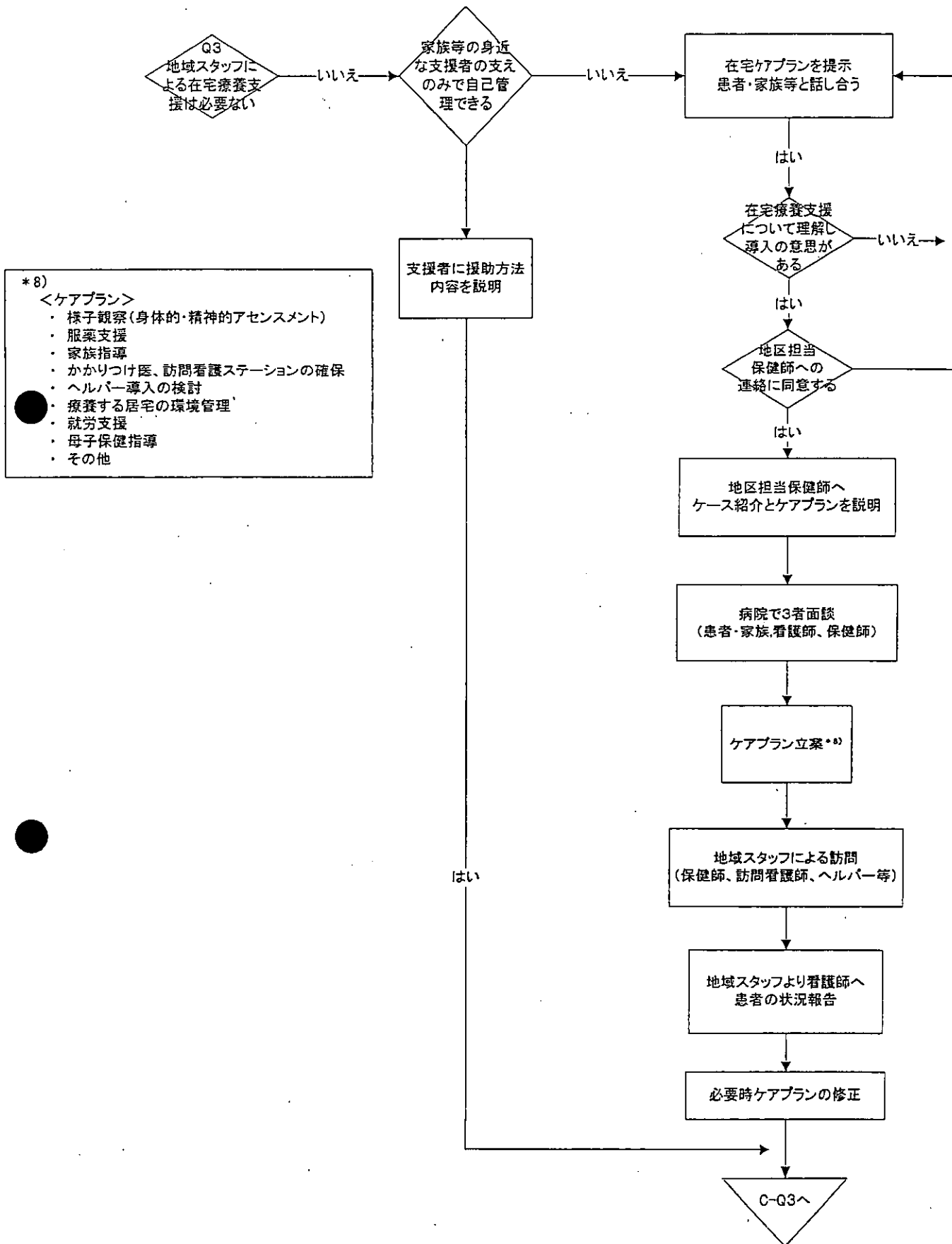
B-5 病気を知っている支援者がいない場合の判断樹



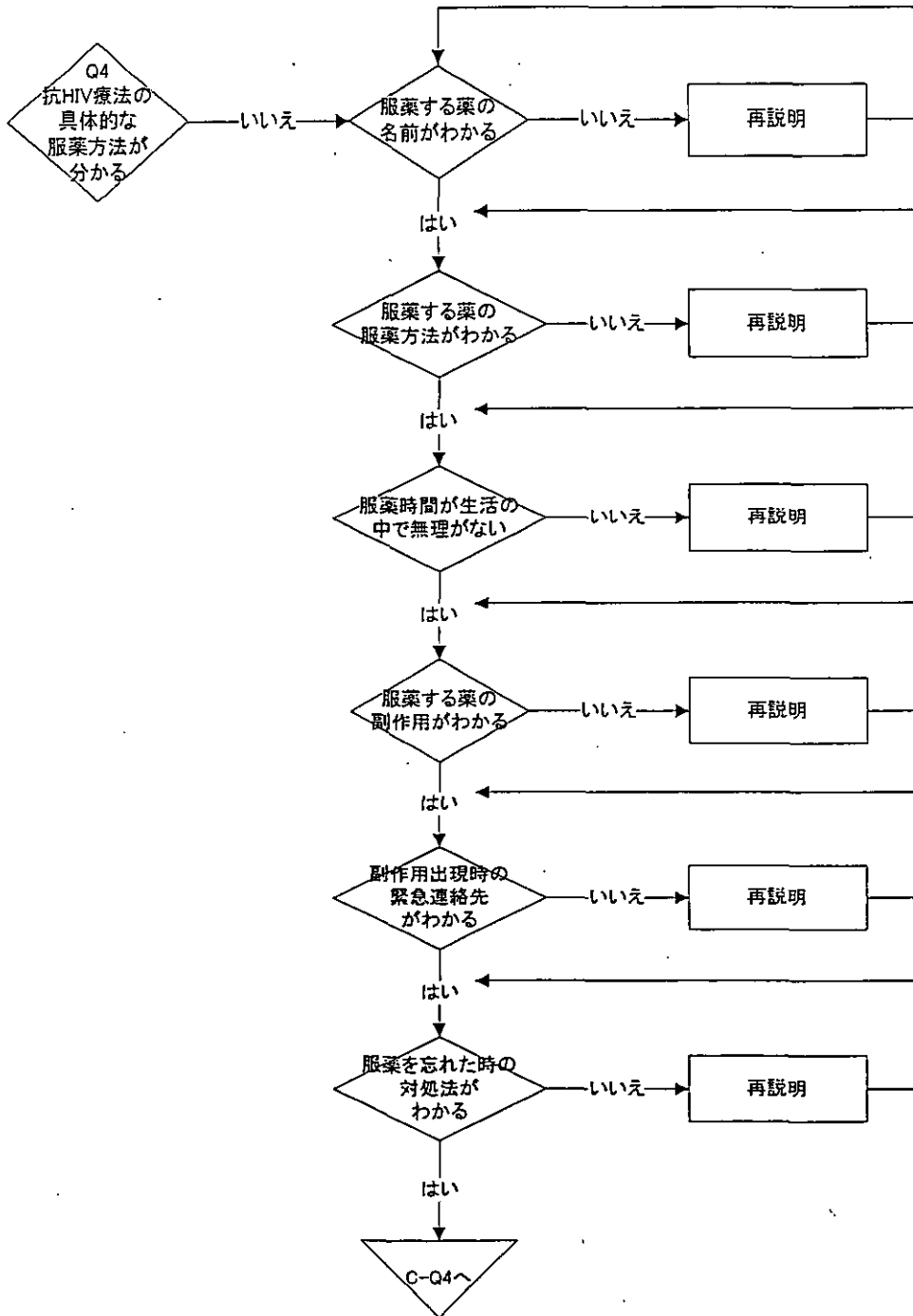
B-6 患者教育2回目又は適宜必要な場合の判断樹



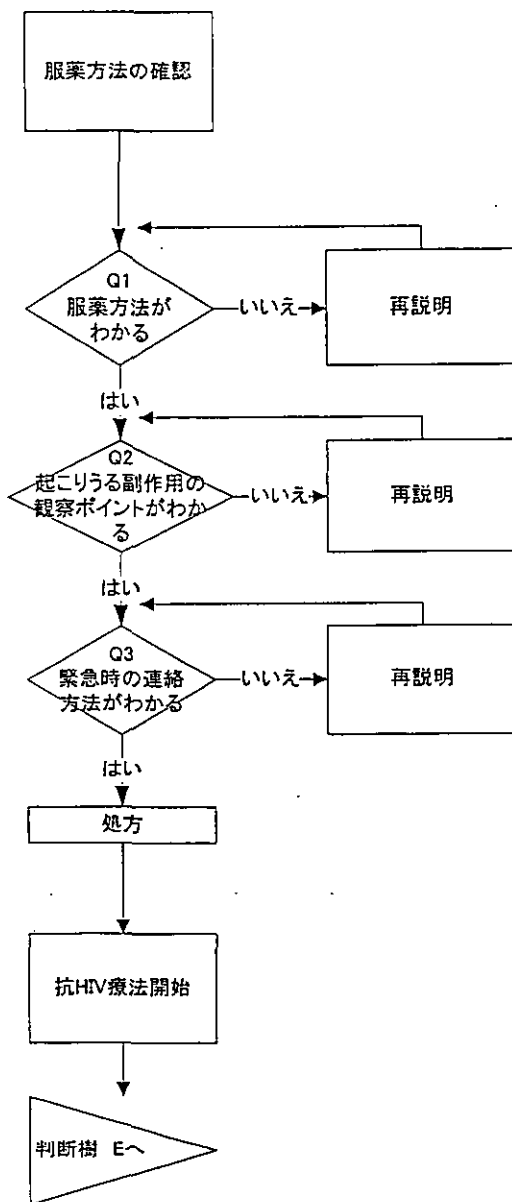
C-1 地域スタッフによる在宅療養支援が必要な場合の判断樹



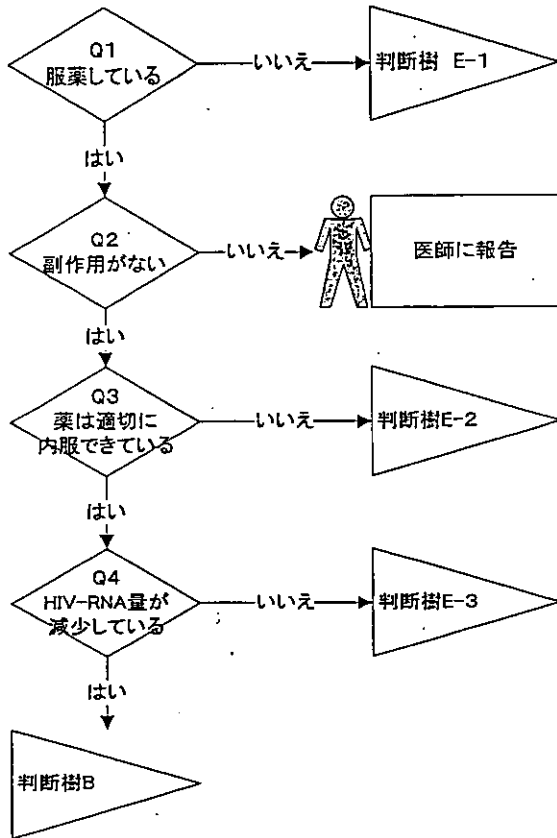
C-2 抗HIV薬の具体的な服薬方法がわからない場合の判断樹



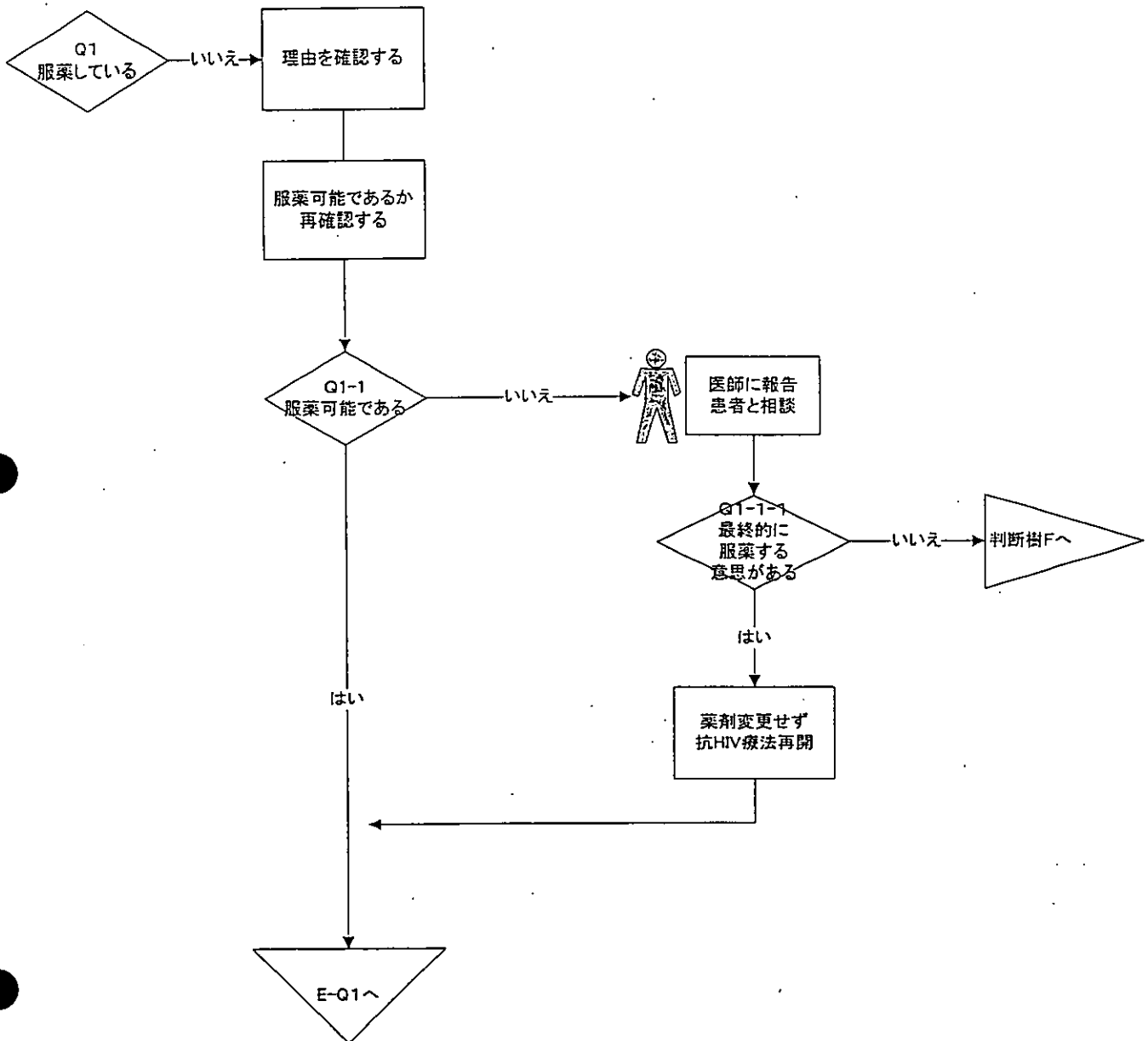
D 抗HIV療法開始時の段階の判断樹



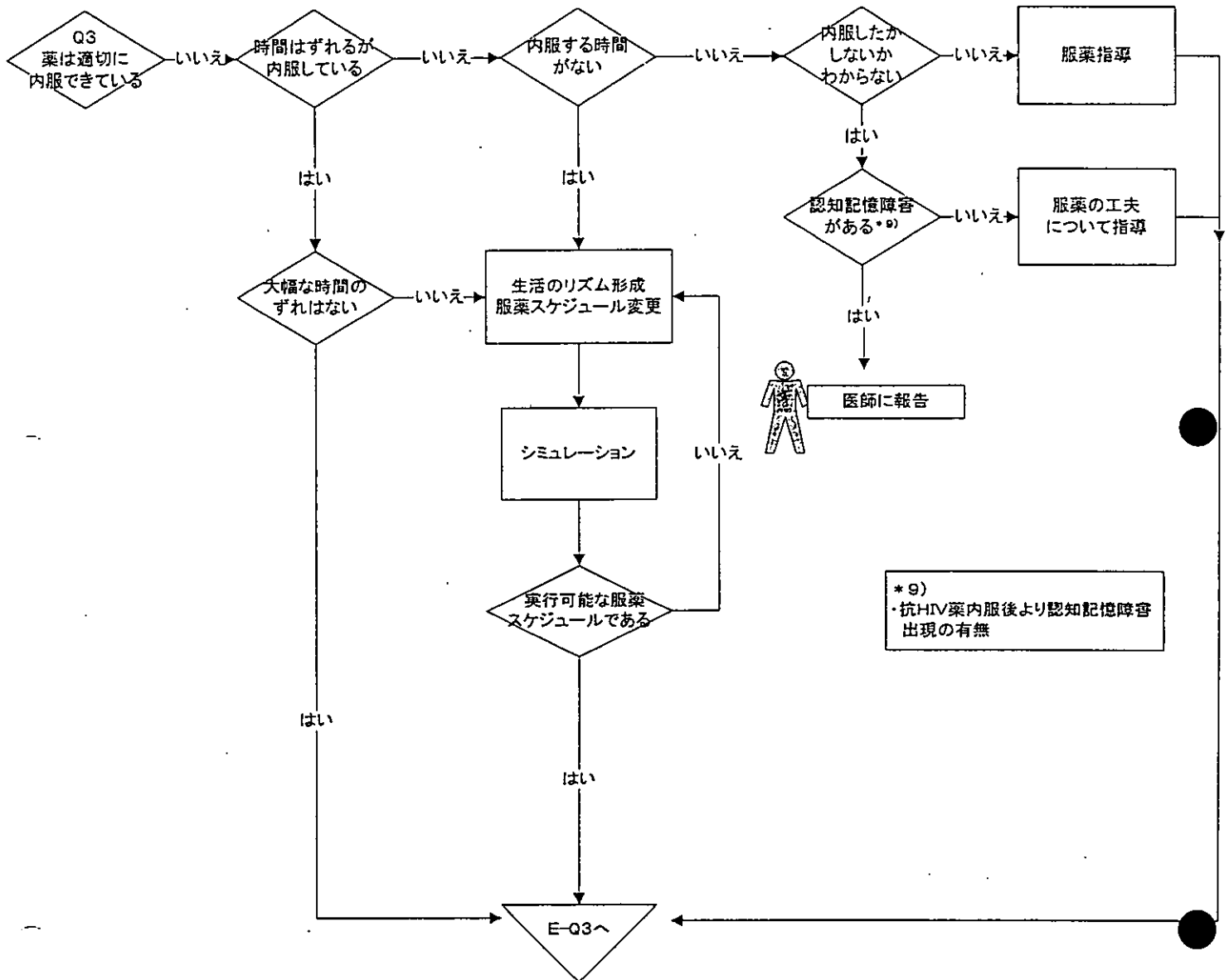
E 抗HIV療法開始後の段階全体の判断樹



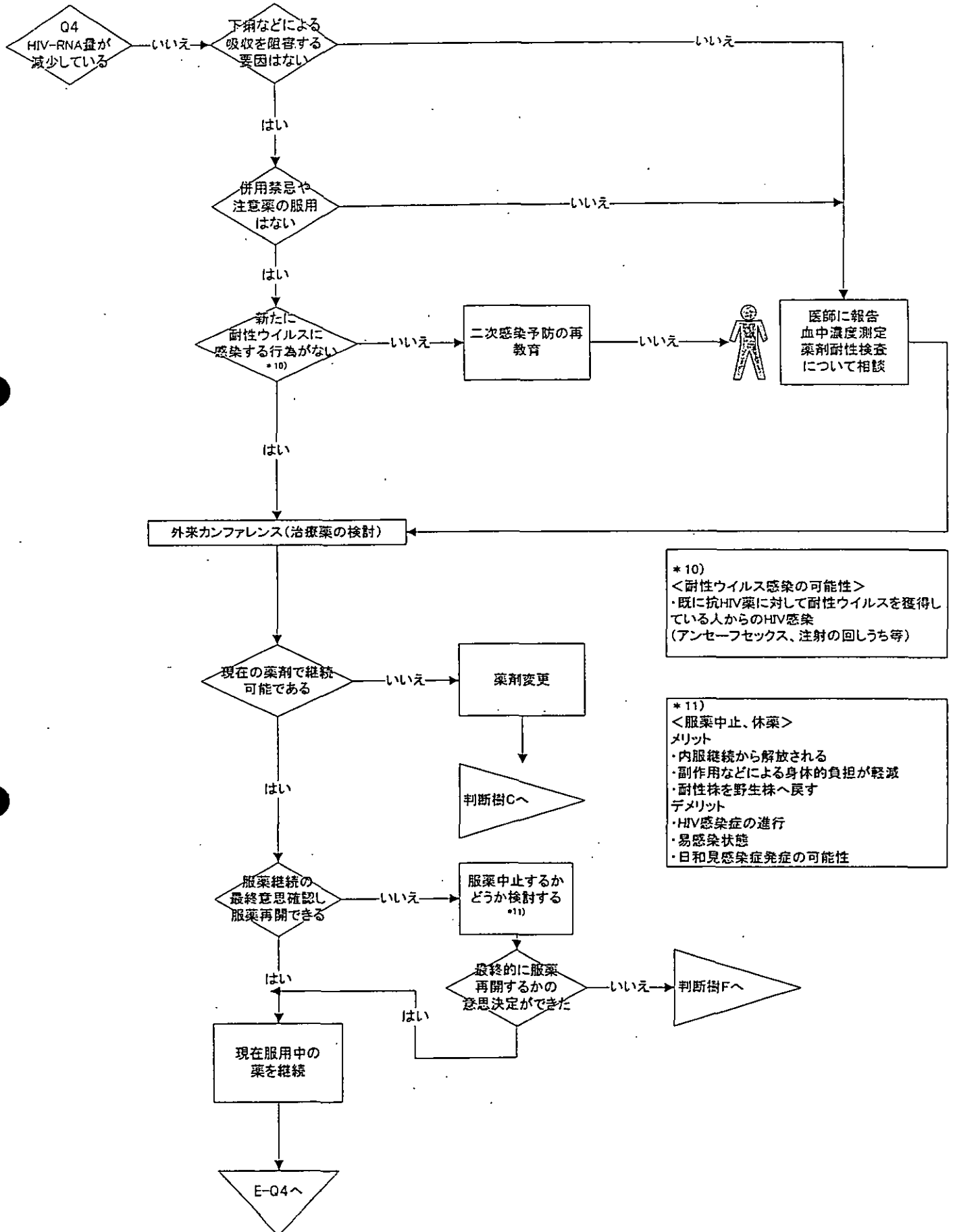
E-1 自己判断により内服していない場合の判断樹



E-2 薬を適切に内服できない場合の判断樹



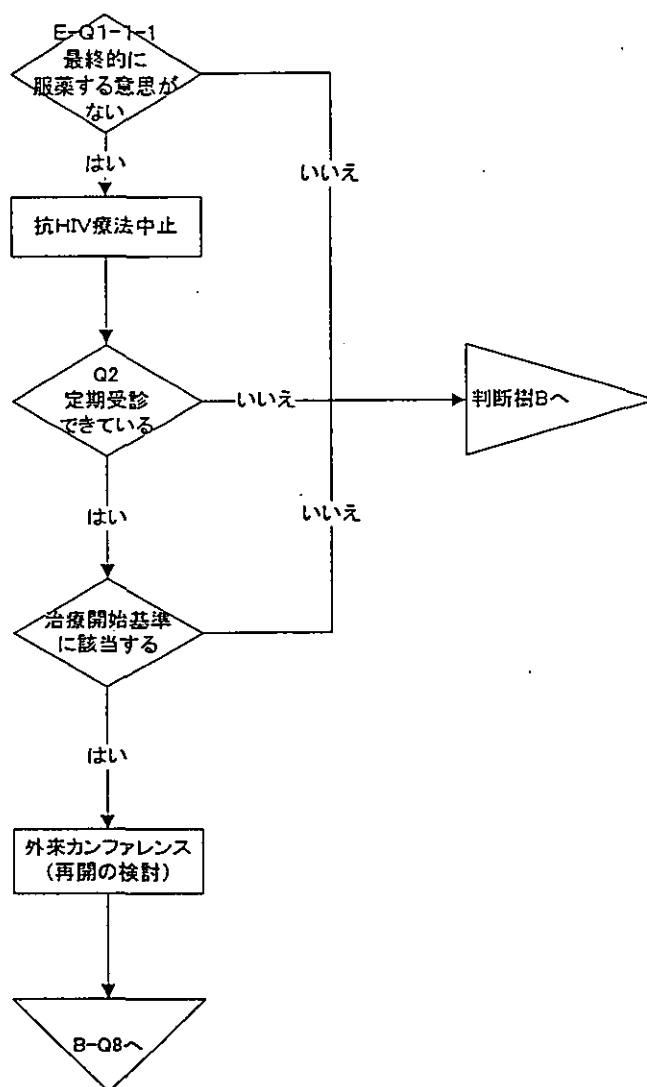
E-3 HIV-RNA量が減少しない場合の判断樹



* 10)
 <耐性ウイルス感染の可能性>
 ・既に抗HIV薬に対して耐性ウイルスを獲得している人からのHIV感染
 (アンセーフセックス、注射の回しうち等)

* 11)
 <服薬中止、休薬>
 メリット
 ・内服継続から解放される
 ・副作用などによる身体的負担が軽減
 ・耐性株を野生株へ戻す
 デメリット
 ・HIV感染症の進行
 ・易感染状態
 ・日和見感染症発症の可能性

F 抗HIV療法中止・再開の段階の判断樹



VI. おわりに

VI. おわりに

今回、修正・追加した平成10年度版看護プロトコールは、看護師が療養者の状態を観察した結果を踏まえて行う判断の基準を標準化したものであり（判断樹）、わが国においては他に類を見ない。看護の判断基準の標準化は、医師が立ち会わない場（在宅の場）において、医師の指示に基づき、看護師が安全に適切かつ、良質のケアを提供するための、統一した基準として重要である。また、平成10年度版看護プロトコールは、その後の評価研究において、利用者および他職種への訪問看護の役割機能に関する情報開示にも効果的であることが明白になっている。そういった条件を整えた標準的基準は、看護の領域においても独自性が高いものであると考える。

在宅看護の標準的基準を提案することは、訪問看護サービスとりわけ医療的行為に関する諸サービスの質を保証し、向上させることができるものとして、さらに利用者に対しては質の高い訪問看護と看護師によるより安全な医療的行為を保証するものであるとともに、在宅医療の充実や在宅医療施策の促進に寄与することである。今後も、社会の動きに合わせて、適切な修正がなされながら、このプロトコールが活用されていくよう、努力が必要である。

VII. 引用·参考文献

Ⅶ. 引用・参考文献

1. 在宅自己注射（インスリン療法）

- 1) 阿部隆三監修, 野崎征支郎, 朝倉俊成編集: 患者さんとスタッフのための糖尿病薬のすべて, 医師薬出版株式会社, 1998.
- 2) 羽倉綾子責任編集: 糖尿病ケアマニュアル, エキスパートナース MOOK24, 照林社, 1996.
- 3) 厚生省健康政策局, 日本医師会監修: 医療者用在宅インスリン自己注射マニュアル, 文光堂, 1995.
- 4) 松田文子: 在宅自己注射治療の実際, *Medical Practice*, 13.(臨時増刊号): 121-134, 1996.
- 5) 大阪大学医学部附属病院: やさしい糖尿病の自己管理 改訂版, 医薬ジャーナル社, 1998.
- 6) Thow, J., Home, P.: Insulin Injection Technique, Depth of Injection is Important, *BMJ*, 301: 3-4, 1990.
- 7) 横村妙子: 在宅自己注射患者への支援の実際—インスリン, *臨床看護*, 24: 167-174, 1998.
- 8) 日本糖尿病療養指導士認定機構編: 日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック 2003, メディカルレビュー社, 2003.
- 9) 金子美恵, 瀬戸奈津子監修: *Nursing Today* 臨時増刊号 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問 100, 日本看護協会出版会, 2003.

2. 在宅自己腹膜灌流

- 1) 阿部年子, 石崎充: 透析室ビギナーのための基礎知識&用語マスター, PART5 CARD 患者の看護と観察点, *透析ケア*, 4: 466-471, 1998.
- 2) 長谷川美津子: 在宅ケアに関する研究と課題, 訪問看護特有な問題は何処にあるか—安全性と安楽性の視点からの研究テーマ, *看護研究*, 30: 9-15, 1997.
- 3) 長谷川美津子: 医師への報告(書)と指示受け, 訪問看護に必要な知識とスキル基礎編 6, 訪問看護と介護, 1: 420-425, 1996.
- 4) 厚生省健康政策局, 日本医師会監修, 自宅自己腹膜灌流法マニュアル等作成委員会編集: CAPD ガイドライン(医療者用), 総合健康推進財団, 1992.
- 5) 中本雅彦, 波多野照子, 松原文子, 他: カテーテル出口部感染のケアと治療法は?, *透析ケア*, 2: 222-228, 1996.
- 6) 中本雅彦: 治療法をどう選ぶ? PART5, こういうときには CAPD から他療法に切り替えます, *透析ケア*, 3: 144-148, 1997.
- 7) 中塩哲士: 出口部感染の原因菌とその対策, *臨床透析*, 13: 527-536, 1997.
- 8) 大平整爾: CAPD 最前線 PART3, カテーテル合併症, *透析ケア*, 3: 246-252, 1997.
- 9) 太田和夫監修: CAPD 療法II改訂版, 全国 CAPD 連絡協議会, 1990.
- 10) 太田和夫, 中川成之輔, 川口良人: CAPD の臨床, 改訂第2版, 南江堂, 1994.
- 11) 太田和夫監修, 神奈川県 CAPD 看護研究会編集: ナースのための導入マニュアル CAPD 看護の A to Z; *透析ケア増刊*, メディカ出版, 1995.
- 12) 斎藤明監修, 新生会第一病院, 社会福祉法人新生会教育訓練センター編集: CAPD ハンドブック第2版, 医学書院, 1993.
- 13) 白井大祿監修, バクスター: CAPD 療法を始めるにあたって—患者さん用手引き, バクスター, 1991.

- 14) 城谷典保, 水野康弘編: 在宅治療のアプローチ, 薬事時報社, 1995.
- 15) 塚田邦夫: 創管理におけるスキンケア, 臨床透析, 13: 537-548, 1997.
- 16) 横田眞二, 熊野和雄: 腹膜炎の診断と治療, 透析ケア, 3: 266-273, 1997.
- 17) バクスター・ナーサカレッジテキスト/窪田実&日本腎不全看護学会監修 合併症5章1~17, バクスター, 2003.
- 18) 日本腎臓学会合同委員会: 腎疾患患者の生活指導、食事療法に関するガイドライン 日本腎臓学会誌 39, 1-37, 1997.
- 19) 透析患者における死因: 2002年日本透析医学会総会報告
- 20) 平山智也, 菊池健次郎: 3. 循環器系合併症, 透析療法事典, 241-247, 医学書院, 1999.
- 21) 窪田実: 試験紙で腹膜透析の合併症を診断, Nurse College update, 23, 1993.

3. 在宅酸素療法

- 1) 原沢道美編: 慢性呼吸不全と在宅酸素療法, 現代医学社, 1992.
- 2) 日野原重明監修: 呼吸器疾患看護マニュアル, 学習研究社, 1987.
- 3) 日野原重明監修: 在宅酸素療法の実際, 文光堂, 1994.
- 4) 堀江孝至, 木下由美子: 在宅酸素療ガイドブック, 医学書院, 1990.
- 5) 泉孝英: 在宅酸素療法 Q&A, 医薬ジャーナル社, 1997.
- 6) 木田厚瑞: 在宅酸素療法マニュアル, 医学書院, 1997.
- 7) 木村謙太郎, 石原亨介: 在宅酸素療法, 医学書院, 1997.
- 8) 厚生省健康政策局, 日本医師会監修: 在宅酸素療法ガイドライン(医療者用), 総合健康推進財団, 1991.
- 9) 厚生省健康政策局, 日本医師会監修: 酸素と共に生きる道(在宅酸素療法患者用マニュアル), 総合健康推進財団, 1991.
- 10) 厚生省健康政策局医療技術開発室監修: 医療ガス保安管理ハンドブック(改訂版), きょうせい, 1993.
- 11) 丸山征四郎: 酸素療法, 中外医学社, 1991.
- 12) 毛利昌史, 町田和子: 呼吸療法マスタースクール, No.6, テクノコミュニケーションズ, 1997.
- 13) 沼田克雄監修: 入門・呼吸療法, 克誠堂出版, 1993.
- 14) 岡安大仁, 岩井郁子編: 成人看護学呼吸器系第2版, 金原出版, 1993.
- 15) 奥宮暁子: 生活調整を必要とする人の看護 I, 中央法規出版, 1995.
- 16) 奥宮暁子: ナーシングレクチャー呼吸器系疾患をもつ人への看護, 中央法規出版, 1997.

4. 在宅中心静脈栄養法

- 1) Balinsky, W.: Home Care - Current Problems and Future Solutions, Jossey-Bass Publishers, 1994.
- 2) Crow, S.: Prevention of Intravascular Infections Ways and Means, *J. Intraven. Nurs.*, 19: 175-181, 1996.
- 3) Davis, J. H.: Total Parenteral Nutrition (TPN) at Home, Prototype High-Tech Home Care Nursing, *Gastroenterol Nurs.*, Nov-Dec 19: 207-209, 1996.
- 4) Evans-Stoner, N.: Guidelines for Care of the Nursing Clinic, 32: 769-775, 1997.
- 5) 井上義文: カテーテルと敗血症 - 中心静脈カテーテルの無菌的管理法, 総合医学社, 1992.
- 6) Intravenous Nurses Society: Intravenous Nursing Standard of Practice, 1998.

- 7) Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations : Accreditation Standards for Home Infusion Companies, Chicago, Author : 1990.
- 8) 川村佐和子 : 平成 9 年厚生省看護対策総合研究事業研究成果報告書 老人の在宅ケアにおける看護技術研究, 1998.
- 9) Maki, D. G. : Improving Catheter Site Care, Royal Society of Medicine Service, 1991.
- 10) 松本智 : 在宅中心静脈栄養法 (HPN) の管理—実施編, 訪問看護と介護, 3 : 746-750, 1998.
- 11) 松本智 : 在宅中心静脈栄養法 (HPN) の管理—基礎編, 訪問看護と介護; 3 : 663-668, 1998.
- 12) McDermott, M. K. : Patient Education and Compliance Issues Associated with Access Devices, *Semin. Oncol. Nurs.*, 11 : 221-227, 1995.
- 13) 三村令児, 平尾頼子, 土屋郁子, 他 : 在宅中心静脈栄養法; 治療, 77 : 59-64, 1995.
- 14) 根津理一郎, 藤井眞, 山東勤弥, 他 : 在宅栄養療法の管理指導の実際, *Medical Practice*, 11 (臨時増刊号) : 361-366, 1994.
- 15) 押川真喜子 : 在宅における輸液と看護, *臨床看護*, 22 : 741-748, 1996.
- 16) 城谷典保, 水野康弘編 : 在宅治療へのアプローチ—Home Infusion Therapy への取り組み, 薬業時報社, 1995.
- 17) Smith, C., Moushey, L., Ross, J., et al. : Responsibility and Reactions of Family Caregivers of TPN Dependent Patients, *PHN*, 10 : 122-128, 1993.
- 18) Smith, C. E. : Quality of Life in Long-Term Total Parenteral Nutrition Patients and Their Family Caregivers, *JPEN*, 17 : 501-506, 1993.
- 19) Steiger, E., Srp., F., Helbley, M. I., et al. : Home Parenteral Nutrition, Parenteral Nutrition, Philadelphia, WB Saunders, 654-720, 1986.
- 20) 高木洋治, 岡田正 : 小児在宅栄養輸液のガイドライン, *小児科*, 37 : 925-931, 1996.
- 21) 高木洋治, 岡田正 : 在宅経静脈栄養療法とその管理, *Medical Practice*, 13 (臨時増刊号) : 145-154, 1996.
- 22) 高木洋治, 藤井眞, 和佐勝史, 他 : 在宅静脈栄養の実際, *Medical Practice*, 10 (臨時増刊号) : 348-355, 1993.
- 23) 白井徳子 : 経静脈栄養, *エキスパートナーズ*, 10(6) : 170-173, 1994.
- 24) Varella, L., Watkins, C. K. : Training Patients to Administer Total Parenteral Nutrition via Subcutaneous Infusion Ports; *J. Intraven. Nurs.*, 13 : 51-54, 1990.
- 25) Wickhan, R. S. : Advances in Venous Access Devices and Nursing Management Strategies, *Nurs. Clin. N. Am.*, 25 : 345-364, 1990.
- 26) 山田雅子, 沼田美幸 : 在宅中心静脈栄養法 (HPN) 実施患者の輸液技術の習得状況とそれに関連する要因について, *JJPEN*, 19(2) : 121-126, 1997.
- 27) 山田雅子 : Home Infusion Therapy (HIT) の実際(2)在宅中心静脈栄養法, *月刊ナーシング*, 13(13) : 84-86, 1993.
- 28) 山田雅子 : 静脈留置カテーテルと看護(1)カテーテル合併症と看護, *月刊ナーシング*, 13(10) : 108-112, 1993.
- 29) 山田雅子 : 在宅ケアをとりまく現状と問題点—ハイテクホームケアの立場から; *保健の科学*, 38 : 520-524, 1996.
- 30) 由良二郎編 : 消化器外科静脈栄養マニュアル; ソフトサイエンス社, 1993.
- 31) 在宅中心静脈栄養法マニュアル等作成委員会 : 在宅中心静脈栄養法ガイドライン (医療者用); 文光堂, 1996.

5. 在宅自己導尿

- 1) 荒川創一, 守殿貞夫: カテーテル留置と尿路感染症—病態とケアについて, 排尿障害プラクティス, 5(4): 271-278, 1997.
- 2) 福田とき子: 自己導尿の指導に生かす情報の取り方, ウロナーシング, 3: 450-454, 1998.
- 3) 堀江厚子, 浜詰幸子: 在宅自己導尿患者への支援の実際, 臨床看護, 24: 198-206, 1998.
- 4) 金谷春之: 脳・脊髄疾患における排尿障害, BRAIN NURSING, 10: 5-8, 1994.
- 5) Lapedes J., Diokno A. C., Silber S. J.: Clean Intermittent Self-Catheterization in the Treatment of Urinary Tract Disease, *J. Urol.*, 107: 458-461, 1972.
- 6) スティーブン J. カバナ, (数間恵子, 雄西智恵美訳): 看護モデルを使う①オレムのセルフケア・モデル, 医学書院, p2-22, 1993.
- 7) 鈴木珠水: 在宅頸髄損傷者の排尿自己管理と、その変更・継続に関する研究, お茶の水医学雑誌, 46(3): 125-132, 1998.
- 8) 豊元定子: 頸(脊)髄損傷者の尿路感染の予防と自己管理—感染尿のチェックと対処の方法, 看護技術, 39: 1249-1252, 1993.
- 9) 牛山武久: 排尿のメカニズムと排尿障害, 月刊ナーシング, 16(5): 62-66, 1996.
- 10) 山田薫: 外傷性脊髄損傷回復期～慢性期の泌尿器科的管理, 脊椎脊髄, 5(4): 247-252, 1992.

6. 在宅人工呼吸療法 (筋萎縮性側索硬化症療養者—経気管陽圧法)

- 1) AARC Clinical Practice Guideline, Patient-Ventilator System Checks, *Resp. C.*, 37: 882-886, 1991.
- 2) AARC Clinical Practice Guideline, Endotracheal Suctioning of Mechanically Ventilated Adults and Children with Artificial Airways, *Resp. C.*, 38: 500-504, 1993.
- 3) AARC Clinical Practice Guideline, Ventilator Circuit Changes, *Resp. C.*, 39: 797-802, 1994.
- 4) AARC Clinical Practice Guideline, Discharge Planning for the Respiratory Care Patient, *Resp. C.*, 40: 1308-1312, 1995.
- 5) AARC Clinical Practice Guideline, Long-Term Invasive Mechanical Ventilation in the Home, *Resp. C.*, 40: 1313-1320, 1995.
- 6) アメリカ ALS 協会編, (遠藤明 訳): ALS マニュアル—ALS と共に生きる, 日本メディカルセンター, 東京, 1997.
- 7) Barry, J. M., Nicholas, S. H., Allen, I. G., et al.: Mechanical Ventilation Beyond the Intensive Care Unit, *Chest*, 113(5): 289-344, 1998.
- 8) Bromberg, M. B., Forshew, D. A., Iaderosa, S., et al.: Ventilator Dependency in ALS Management Disease Progression, and Issue of Coping, *J. Neurol. Rehab.*, 10: 195-216, 1996.
- 9) Farrell, A. M., Eve Obert-Thorn, M.: The Amyotrophic Lateral Sclerosis Client and the Issues Surrounding Mechanical Ventilation, *Holistic Nurse Pract.*, 7(3): 1-7, 1993.
- 10) Gorski, L. A.: Mechanical Ventilation, High-Tech Home Care Manual, Gaithersburg, Maryland, Aspen Publishers, Inc., 1996.
- 11) 加藤修一: 神経系疾患患者の呼吸循環系モニタリング, 臨床リハ, 3(10), 52-55, 1997.
- 12) 川村佐和子編: 筋・神経系難病の在宅看護—医療依存度が高い人々に対する看護, 日本プランニ

ングセンター, 千葉, 1994.

- 13) 川村佐和子, 牛久保美津子: 訪問看護におけるプロトコール作成のための基礎的研究, 看護管理, 6: 564-571, 1996.
- 14) 川村佐和子: 平成9年度厚生省看護対策総合研究事業研究成果報告書 老人の在宅ケアにおける看護技術研究, 1998.
- 15) 川嶋乃里子: 筋萎縮性側索硬化症患者の在宅人工呼吸療法, 難病と在宅ケア, 3 (12): 19-20, 1997.
- 16) Mitsumoto, H., Chad, D. A., Prioro, E. P., et al.: Amyotrophic Lateral Sclerosis, Philadelphia, F. A. Davis Co, 1998.
- 17) 長沢つるよ, 長谷部綾子, 岡戸有子, 他: 在宅人工呼吸療法 (HMV) 療養者の社会的入院の必要性 - 入退院状況の分析, 都衛生局学会, NO. 99: 366-367, 1997.
- 18) O'Donohue, Jr., W. J., Giovannoni, R. M., Keens, T. G., et al.: Long-Term Mechanical Ventilation Guidelines for Management in the Home and at Alternate Community Sites, *Chest*, 90 (1): 1-37, 1986.
- 19) 小倉朗子: 在宅人工呼吸療法における人工呼吸システムのエラーに起因する療養者健康障害の発生状況に関する研究, お茶の水医学雑誌, 46 (1): 13-24, 1998.
- 20) Simizu, T., Hayashi, H., Kato, S., et al.: Circulatory Collapse and Sudden Death in Respirator-Dependent Amyotrophic Lateral Sclerosis, *J. Neurol. Sci.* 124: 45-55, 1994.
- 21) 徳山祥子, 川村佐和子, 数間恵子, 他: 長期在宅経気管人工換気療法者における気道浄化看護に関する検討, 日本呼吸管理学会誌, 7: 213-218, 1998.
- 22) 牛久保美津子, 川村佐和子, 数間恵子, 他: 訪問看護サービスの整備課題 - 訪問看護技術教育と医師との連携, 看護管理, 6: 492-499, 1996.
- 23) 輪湖史子, 牛込三和子: 在宅人工呼吸療法における患者・家族教育の進め方, THE LUNGPERSPECTIVES, 6 (1): 54-58, 1998.

7. 在宅癌化学療法

- 1) American Society of Hospital Pharmacists: Safe Handling of Cytotoxic and Hazardous, American Society of Hospital Pharmacists, 1990.
- 2) 陳瑞東, 荷見勝彦, 増淵一正: 婦人性器悪性腫瘍患者を対象とした在宅癌化学療法の可能性について - 在宅治療に適した CDDP の投与方法と適応症例の選択, 在宅癌治療, 3: 5-11, 1993.
- 3) 陳瑞東, 達木泰裕, 平井康夫, 他: ODDP の低濃度長時間投与方法は臨床的有効性を高める - 卵巣癌患者の在宅化学療法をめざして, 癌と化学療法, 20: 265-270, 1993.
- 4) 陳瑞東: 在宅癌化学療法とその管理, *Medical Practice*, 13 (臨時増刊号): 155-166, 1996.
- 5) 藤田健二, 古泉秀夫, 下川正見: アメリカにおける抗癌剤混注業務の実状, 看護管理, 2: 279-286, 1992.
- 6) 小林寛伊, 細淵和成: 医療廃棄物・誤刺による感染防止対策, 廣川書店, 1992.
- 7) 小坂健夫, 土屋健, 菅谷純一, 他: 胃癌腹膜播種に対する動注化学療法の検討, 癌と化学療法, 23: 1467-1471, 1996.
- 8) 小坂健夫, 他: 予後と在宅移行の面からみた腹膜播種性胃癌に対する集学的治療の意義に関する検討, 日本消化器外科学会雑誌, 30: 1706-1713, 1997.
- 9) 武藤淳, 藤野吉和, 伊藤公志, 他: 5-FU, CDDP の少量連日投与による在宅癌化学療法の試み,

癌と化学療法, 23 : 245-250, 1996.

- 10) 日本病院薬剤師会学術委員会：抗悪性腫瘍剤の院内取り扱い指針, 1991.
- 11) Oncology Nursing Society : Safe Handling of Cytotoxic Drugs. 1989.
- 12) OSHA : Work-Practice Guidelines for Personal Dealing with Cytotoxic (Antineoplastic) Drugs, *AJHPA*, 43 : 1193-1204, 1986.
- 13) Shotkin, J. D., Pharm, F. L. : Use of Indwelling Peripheral Catheter for 3-5 Day Chemotherapy Administration in the Outpatient Setting, *J. Intraven. Nurs.*, 19 : 315-320, 1996.
- 14) 城谷典保, 水野康弘編: 在宅治療へのアプローチ-Home Infusion Therapyへの取り組み, 1995.
- 15) 高橋由美子, 他: リザーバー療法における自己抜針指導の手順の検討, 高知県立中央病院医学雑誌, 24 (2) : 47-49, 1997.
- 16) Williams, S. A. : Using Oncology Nursing Society Cancer Chemotherapy Guidelines as A Basis for Continuing Education in Rural Hospitals, *Oncology Nurs. Forum*, 22 : 689-694, 1995.
- 17) 山田雅子, 長谷川朝子, 松浦千恵子, 他: 化学療法を受けている癌患者の QOL について-入院医療と在宅医療の比較から, 看護研究, 30 : 425-434, 1997.
- 18) 山田雅子: 在宅治療とその実際-器具・用具と医療廃棄物対策, *Medical Practice*, 13 (臨時増刊号) : 107-112, 1996.
- 19) 佐々木常雄, 依田季子, 高橋聡子: 特集 癌化学療法副作用のベストケア、エキスパートナーズ, 36-71, 2002.
- 20) 中田和美, 足利幸乃: 投与中に血管痛を引き起こす抗がん剤, *がん看護*, 504-508, 2003.

8. 在宅経管栄養法

- 1) 花岡真佐子: 経管栄養, *臨床看護*, 19 : 618-621, 1993.
- 2) 原口義座: 高カロリー輸液と経腸栄養-栄養管理とナースの役割, *エキスパートナーズ*, 9 (9) : 34-37, 1993.
- 3) 畠山勝義, 武藤輝一: 在宅経管栄養の実際, *Medical Practice*, 10 : 356-364, 1993.
- 4) 肥後恭子: 経管栄養, 見てわかる看護処置・第5回, *看護技術*, 92 (7) : 69-76, 1996.
- 5) 川島みどり, 菱沼典子: 検証・経管栄養の技術-温度と速度について①経験的知識, *ナーシングトゥデイ*, 10 (10) : 34-37, 1995.
- 6) 川島みどり, 菱沼典子: 検証・経管栄養の技術-温度と速度について②科学的分析, *ナーシングトゥデイ*, 10 (12) : 34-37, 1995.
- 7) 川島みどり, 菱沼典子: 検証・経管栄養の技術-温度と速度について③科学的分析, *ナーシングトゥデイ*, 10 (13) : 34-37, 1995.
- 8) 川島みどり, 宮崎康編: 内科系実践的マニュアル, *看護の科学社*, 6 : 183-189, 1995.
- 9) Loan, T., Kearney, P., Magn, B., et al: Enteral Feeding in the Home Environment, *Home Healthc. Nurse*, 15 (8) : 531-538, 1997.
- 10) 桃園忍, 青柳明子: 在宅成分栄養・経管栄養患者, *エキスパートナーズ*, 13 (6) (5月臨時増刊号) : 154-160, 1997.
- 11) 酒井靖夫, 畠山勝義: 在宅経管栄養療法とその管理, 在宅治療とその実際, *Medical Practice*,